

自然と文化科 活動記録

日時	2024年7月5日（金）10:00～15:00		担当者
場所	1班 上町台地 3班 中之島	2班 神戸須磨シーワールド 4班 旧甲子園ホテル	文：五家正敏 写真：鶴 敏子
備考	参加者数：61名（1班15名、2班16名、3班15名、4班15名） 天候：晴れ		

- 1班 上町台地北部散策と大阪管区気象庁見学
- 2班 神戸須磨シーワールド見学
- 3班 中之島ぐるっと橋巡り&懇親会
- 4班 旧甲子園ホテル見学と昼食懇親会

以下4班での活動記録です。

（1）JR 神戸線甲子園口駅に集合。途中、松山大学温山記念館に立ち寄る。旧甲子園ホテルには 10:20 頃到着。

武庫川女子大学の見学担当者から概要説明を受けた後 VTR を視聴する。旧甲子園ホテルは、現在は武庫川女子大学甲子園会館の名で主に建築学部の学舎として使用されている。



かつては「東の帝国ホテル、西の甲子園ホテル」と並び称された関西屈指のホテルであった。昭和 5 年（1930）に竣工された超高級リゾートホテル（客室 30）だけあって、まずそびえたつツインのシンボルタワー（煙突）が目に入る。玄関も当時としては珍しい回転ドアであった（「おす」との明示あり）。ホテルとしてはわずか 14 年間だけ使用された。フランク・ロイド・ライト、直弟子の遠藤新、帝国ホテルマネージャーの林愛作の三者の人間関係・手紙のやり取り等の説明は面白かった。特にライトの人間性（家族関係が乱れ、仕事がなかった中で日本からオファーあり等）には大いに興味がわいた。

（2）11 時から 12 時までの間、玄関、室内、中庭、屋上等で現地説明がなされた。設計者遠藤新には二つの独自のデザインの考え方があったようだ。一つは打出の小槌、もう一つは水（水玉）である。室内、屋上等あらゆる場所にこの二つのデザインが施されている。また、移り行く四季もしっかり取り入れられている。冬至の時の窓から入ってくる日射（陽光）はエジプトやマヤのピラミッドを彷彿させる。緑釉瓦、西ホールの光天井の障子、バーの泰山タイル等からみられるように、日本の伝統美を生かした洋式建築は目を見張るものがある。



（3）見学後は JR 甲子園口駅前の料理店「花やしき」で昼食懇親会をおこなった。座席はくじ引きで決め、和やかな雰囲気であった。普段は出ないような話題もたくさんあり、各人のお人柄が伝わってくるようで、実り多い班別活動であったように思う。

